倣古文庫 九

俳諧春久加古集

へ5
1139
8

門 へ5
號 1139
巻 8

帝國圖書館藏

都こ孚文業と地世ゆ引つ[illegible]
ゆ[illegible]水ゆ[illegible]を始きて
又門戸あて角ゆ[illegible]を社交一水と
業文寅文の歌古婦ゆ[illegible]れると孫
暦戸こ[illegible]ゆ[illegible]架乃[illegible]
く岩ゆ[illegible]大宮氏ゆ[illegible]清水に
也ゆ[illegible]そゆ[illegible]ゆ[illegible]て北
[illegible]を姓名戸芦明と引ゆ[illegible]

乱水は陸にうちあがりて
ものの家宅を流失せしなる
由にて浦々乃祝ひの為めに
日出元の為め潜稽古小家を造る
此日海は海の内よりうしほの
かひあり我指ひみるのなしく能き為を
以て刈とり漁せる網のあり所まで
殺さるる人二百人のうち未だ生
存

石は岩鉄のごとき潜きの上にて
あるをもて百代を経る間もなく為の為
に粉砕して為見を集集まる所成
出たるとて つくるに其形花の
坊窩の鍋あれたなりけるさまを
より水をうつ為のうつ角人まひしく設
こと成ることなりて岩鉄とこそとる人
殺りて水筆を為めし 常稽古の者を

平丈斎とゝまりて陶をまなぶ
志ゝなり是

嘉永五年二月朔日　江由指淺

[illegible]

[illegible]

寛久加古年

古稀賀延表八章

七四ゝ載しゝ奥にゝ嘉ゝ乳　牧翠
杉ゝ柳ゝ[illegible]ゝ　芦の
烏帽子杉ゝ[illegible]ゝ　由整
豆ゝ[illegible]ゝ　得蓋

出の入り休まるまを解舟　一具
縫授ること幷　帯の再生　紙鄉
拭うこと拵　三丈ばかり　自　遠湖
拭うこと　紙屋　西馬

春の初め菜を中うこと人事　節物
彩年生ること　枝付物　内整
うりかけ白い物袋　壁解　物
紫物の紙を袂うこと出仕　整
山の端をきれること月の下物　物
赤と二三分ばかり州の生物　整
ウ
ゆう紙生ること先の絞臭生　物
生物の喧ること給金可外　整

[illegible]せぬ意味深長の[illegible]　明

[illegible]の[illegible]　整

[illegible]　明

[illegible]の物　整

[illegible]の物　明

[illegible]の[illegible]　整

[illegible]の[illegible]　明

[illegible]　整

今が[illegible]の数　明

[illegible]直ぐ出る[illegible]　整

二　いまも西を望[illegible]ある水き[illegible]　〃

工合の[illegible]以算[illegible]　明

参謀の[illegible]一数いま事　整

智[illegible]手帳[illegible]　明

[illegible]　整

[illegible]　明

二百余年を千のけて　静
秋風の出るとしるき秋　明
板敷きたるものうく月の冴　静
きてしおくのこしの蝶深　明
ゝれて重ねけるに集く仲哥れ　静
ゝまくたゝまゝ道うけ生れ　明
ウ
つまゝたよる高き馬をのみれのう　静
本樵のうゝ芝のかゝる歩　明

かゝつて秋海棠いくゝ仲の簡　静
かゝく後年を豪きしる續　明
時勝の出の中まるゝ勝　静
樹深ゝきゝ一業をの静　明

元のみ連々迄多の時の雲　西馬
よき業の法年こゆる初冬風　芦的
横新生ゆるみ柳の常しく　同
掃の修復よき傳き　入口　的
いさゝかの高ゝ六寸紀自の色　同
皮よりも若枝葉の早ちも　的
うまるゝ河法見彗の出ち海　同
絵四洗ゝ水搗年業家　的

稽古を業のゆゝ枝先ゝ合　同
牡ゝ生ゝ年歳る印鏡　的
意味ゆゝ紀新業の崖造　同
水柱枝下乃義ゝ歩自　的
いさゝ孔年矢朱を斗ゝ分　同
京の役ゝみ見枝妻車内　的
手をゝ勅進能の再新仁　同
を出ゝ法連の分ゝ彩朱　的

昇る日に蔭をそれる出の雲
奏は人をよりの機嫌を
二 芝鍋の白み青うそ水仙寺
庭中風しもゆるもの限り
ちりうと男女共に出と色多
紫は出ふうんみ紛る稀の色
蒸しうと奏るみ水ぬ紅ちり
樺の色は数ちいさい歩

ウ

紙帳のうちを浸を蒸の先
接は出れしの耳の出るうち
行すうは筆一おて用の色り
時はくみ大市の乃ちり
行入の蔭出る真る自乃秋
奏を清うみ蔭を樹
山蔭を小清をうをうを八成をみ
奏屋乃樺除をうを倫

[illegible]入院の修を遂ぬ　的
[illegible]のうい[illegible]を拿者　与
[illegible]の[illegible]の咲ぬる　的
[illegible]ふる炉童歩　与

人[illegible]ふる[illegible]　四山子
[illegible]　可川子
白[illegible]　一夢尼
[illegible]の始めを[illegible]　鉄中
[illegible]の[illegible]の雑京　石永
[illegible]類等[illegible]　牡涼
[illegible]　[illegible]時　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

掌ふかきをかすめる雲の猶うれ十六夜の月　柳雪

夢ふかくうつる物もおのれ　夕月

元志ふかくうつる水　元史

尽くしと思ふ花の梅うれアハ　蔡雷

美家の春は雪もうれ　桑原

油断は春かすめる宵　美信

面影ふかくうつる月　可大

うつるは美人まめきをうれ　子之

住居うつる春の梅　玄宗

春の面影の塔の出色　黄山

面影は世世の春の月　月底

おのゝ[illegible]の[illegible]の[illegible]れ（ミカハ） 蓬宇

[illegible]の[illegible]の[illegible]ゝ 三岳

[illegible]（テハ） 信房

[illegible]の[illegible]れ 嶽城

[illegible]の主 稲物

[illegible]上[illegible] 一天

[illegible]（長作文） 春湖

[illegible]（マヽ） 子旭

[illegible]れヲク 舎用

[illegible]の[illegible] 江之

[illegible]の[illegible]れ 天溯

[illegible]の[illegible]（ユキコ） 榮山

[illegible]の[illegible] 子布

[illegible]の[illegible] 渡云

[illegible]の[illegible] 春明

[illegible]の[illegible] 乙良

三唐代を長安の春の春　水溪
ふる郷を行きん心の自ら楽　好静
出かくれゆくみの行るや春の月　扇寺
乗るみつるこゝ行くしや海苔の郷　鶯眠
日移り社ゆく庶子市の雛カバ　柳壺
起ぬ月小数堂社を寄る孔　松丈
茅屋や重の中ゆるひ社雪　高く
茅屋や山を家ゆるたゝら茶　清岳

一きつきをふきつの行ふ所　永庵
一田の杜の行ふ忍杜兄の所　紙中　苔号
元日の春雪ふるの色　牧春
一杜ゝ綻のけるゝ梅の蕚　桂也女
三初也心尽ゝ梅の蕚ふる変　素山
時ゝ日に杜ゝ花浦也春社水　サワマ　桃載
三色ゝ日わ春ゝ日の情や春の楊　馬蕚
一掃て春重ゝ社の雨一松飾　キイ　宋那

[illegible]ふ治平元年 [illegible] 蔓古
三[illegible]新也めもも[illegible] 迎祥
古[illegible]也水[illegible]新[illegible]山社[illegible] 紙袋
[illegible]永[illegible]の[illegible]也福[illegible]州 物[illegible]
[illegible]ふ[illegible]の上 [illegible]也
[illegible]の[illegible]物 [illegible]（サカミ） [illegible]貞上
[illegible]不[illegible]墨（ヒコ） 十[illegible]
[illegible]物[illegible]（ヒセン） 慈[illegible]

自[illegible]仙[illegible]（下毛） 姑射
独[illegible]の[illegible] 桃仙
[illegible]常[illegible]也[illegible] 紙袋
[illegible]の雲[illegible] 飛友
[illegible]川[illegible]（下サ） 二[illegible]
[illegible]安[illegible] 仙翠
[illegible]の柳仙 [illegible]
[illegible]一海[illegible] 立[illegible]

、和らぎ霞こめ藤は咲ぬ　上毛　可考
、清らなる山井の水の森蔭　筑前
　雀ゆて出るひよの尾花の冠　分尾
、ちらつくと雪水流るる沙干に　朱宝
、春さめの降るゆるやかの雪　筑前
、木よりも松の花の乱れ　遠英
、三条の水にうつるめぐの月　無名
、夢ぬ垣隔てて人のわけ　央浦

遠いの山遠しうらうら梅咲ぬ　之栄
、雀ゆて行くぬ雪ゆきの蝶　陣山
、八重山ぬ梅ら咲てぬ海ら　青葉
、ぬ咲ぬ水ら芽ぬ梅ぬ　珠尾
、雪ら峰ら大雪ぬ　青之
、梅ら花の上ら雪ら雁ら蘭　千鶴
、梅一輪古き和ら咲ぬ　五波
、丘ら春ら春ぬ雪ら　本渕

梅うるる春に逢ふ星合ひ　現法
空の梅ゆ散りしきぬる　藤賊
俤偲ぶいつる春定めける　陸女
一梅に降く時めくしめる　雪夫
初時に降る雪のしめる　塘京
服の雪ちるる袖に　水涯
新春ちる春法つる時に　遠雪
年おくるる梅の花　山外

ミミ雪ちるる梅に降る　井賀
夫られく雪のちれる梅の花　羽人
ミミ梅ちるる梅に降る桃花　多水
雪ちれく雪ちる昇る初の孔　弘年
ミミ乙雪ゆ明る降る初雪　仁湖
ミミ雪を折るる降る初雪　支雪
一て袖ちるる降ゆ梅ゆ孔　子布
春の海伊勢の海ゆ初る　見外

麦ふ法師しるこ　のり汁　召サ　霧雲
育ゆる種ちつゝみ　杜の内　百山
漂無ふ吹ける新芋　毒の内　五英
ふ法ふ　ふ高人ふ　自ら物　彼内
伊ちゝ雲ふへつゝ　ゆふ蔵　特　砂水
ん法ゝ　ゆう法ゝ　初さゝ　煮　一桃
行ふ法の出ふゝ　ふ出ふ　和の鶏　木鐸
組板ふ法ふ　ふゝ蔵業術　抱儀

十三

老ゆ出芋つゝ　見ける蕎　陳舎
一本の柳法方の出口　十六　林曹
業を出ゝ　ふゝ法ゝ　見高の香　炮氷
法砂今尺　ふの　かゝ見　樹石
霧ゆゝ　ゆゝ芋の色芋の鉢　東邑
吹出を拾ふ　ゆゝ　柊山　蔵少
ゝゝ法ふ　ふ尺　ふ杜原　数行
ゝゝ芋ふ　ふ芋ふ　ふ山

十四

山[illegible]也日八[illegible]れの[illegible]雪ぬ[illegible]　芳頃

松[illegible]八松の[illegible]ふ[illegible]の[illegible]　直女

芳業也江戸の[illegible]若[illegible]芳　伯俊

初也也[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]　芳里

[illegible]ふ[illegible]　知也

[illegible]　仁里

[illegible]の[illegible]　ちの[illegible]

人[illegible]　月夕

地[illegible]新[illegible]　雄也

[illegible]　素義

[illegible]　浮水

[illegible]　英烏

[illegible]　大猿

[illegible]　也一

芳也時[illegible]　波静

[illegible]芳の[illegible]　芳栽

松虎と物ふかつまの自称 烏名
墓の自称を唐濤のまつれ水 麦粉
唐代のまつまれ〳〵まる物れら かたち
重ねまき物のまつれを墓の数 朱之
巡ふ黒くまつけくるめの毛 宗玉
求めまた結を浴くう毒 朱 遠丁
此はを自表くまを茶ちり 物望
まを見ゆ斗ふ物の自称 生湖

鄙 [illegible] 物の名 真鍋
産物を蜀の物くし物の 紙 七
珍しき人来て産の茶見 一孫
茶屋の見をもくし書 畑 茶字
洲深ある堂の毒のゆし 特蓋 漁堂
[illegible] 元自
まるくを来て口ある猫毒 松舎

山ざくらかをるこゝろを春の月　綾丸

伊勢の海やしほ干潟の夕すゝみ　蒲柳

まさりをもいかあしかりし秋夏　井山

百寮七二月の岩の立ちつゝ　雅楽

ちぢの人よりしをれ森の木　義寅

春ふかみ花をもあはせ二樹の百年を　西馬

業榊のさゝ竹の命迄　医渕

ちとせ千の年　飛蒙の者　芦明

分庵家業人をとゝ榊ちぢ　渕

出仏力　社業とゝ水安　明

ちゝ老ちり　松尾宮の比　渕

砧は寄ふ貴ふきもの法く
軍ウ 物の考よりも流れ紀宇義
出そ〳〵刺る大釜の風
仮ふ屋い絲ふ崩を江湖の生
枯木の中ふ眠〳〵川ふ壁
意ふ表の外の神〳〵紀神の考
時〳〵重き世無者の考の自
茶者の考ふ仏合ふ源ふ〳〵

同
同
同
同
同
同
同
同

罠ふかく〳〵雑ふふ打ふ〳〵
塩魚は井を〳〵〳〵弱者を
鏡の考〳〵ふ源 尽の〳〵
乳母〳〵乳母粽〳〵〳〵昼夜に
宗旨遠ふ音の行者ふ者を
二 向〳〵ふ枕〳〵〳〵仏尺和
弓矢の叫〳〵ふ生れて
茶筅ふ掌考〳〵法師

同
同
同
同
同
同
同
同

藝妙一樣のうつくしきる
思ふ人を食い出来無き事の驚
天恵うつくしみ浦うつ
賜やうに味と紀伊と臺不
小順ふうつくし燒案仕意
注意をも粉ゆうく拙らの
口のうつくしうつ筆をうる
もうつくしと異の物なる所の自

物ふ事をも伊をも雲鈴
ウ
書物を料ようく燒よく
只分妙のう瘧うつ
能うつくしあうれの和瘧
遠をもうつ伊うる山崖
古口い器咳ふうつ夢
雖仕使ふ命ふいうる窟

遠方にいとゝ生ひ出でたる牡丹　京　梅通

籬ゆゝしき竹の一節七枝の蟬　冬芳

愛の名殺すまでの鶯生き変　生示

子規待つ夜ゆゝしの声ゆゝしく　花叙

茅屋に七夕祭りめぐる月　幻外

秋くれば生まれ出でし竹の節人　十二月　貫山

夕踏の七つ星の輝　素屋

六月の小かたびら八重蔭　可庭

迷ひ出でし夕暮の牽牛　蜂一

人の妻を恋ひめぐりて初蛍　ムサシ　貞考

水辺の小かたびら相撲　玉啄

出でしまを出でしまを月の輝　角々

有為の為に嘆く義の歌　淡富

[illegible]ヲク 心 行
[illegible]の一ウ 杜 大鵬
仙[illegible]毎[illegible]清水 書心
[illegible]の自 功甫
[illegible]水の上 [illegible]白
[illegible]衣 也大
[illegible]の[illegible] 寿化
子子[illegible]白 [illegible]

[illegible]の子[illegible]吹[illegible]梅 [illegible] 杜水
[illegible]の[illegible]杜 [illegible]水
[illegible]スルカ [illegible]崔
[illegible]もの[illegible] 東川
[illegible]カヒ 井良
[illegible]の戸口の[illegible] 素良
[illegible]の[illegible] 杜舟
[illegible]戸口 [illegible] 自立

歳つまに出さかりて安土東扇ヲク一止
沙めの人柳の葉ふる雨ふる　唐民
みちの松の雪ふる深ふる板うれ　由人
北向て初手ふる深一茶庭安　多代女
まんまかり白ふ茶一茶庭　ケハ　桜山
苅の戸麦ふ戸さしぬ里の家　淡迪
連い時麦我ふふ牡丹　麦則
鶏ふり白ひあふふり青簾　イカ　雲広

涼しさや春ふふふ出の見る夕　乗迪
かけふふ貧の蛙も笑　菊桃
蛙のふもふふ笑　梅
子規時も生へみ水乃東　夢迪
蛙植て兎のもふふのかふ兎　由之
水ふふふ内一参ふ蛙　淡路
梅ふふふふ庭ふ角ふ　南竹
雨ふふふ麦ふ雨ふふ　杜竹

出る月の行方は遠き雲の峰　卯月
さゝと戸を明くれば秋の涼しかな　長以
打入て扇をもとる曲り角　少子
苅捨て焚る炭の薫りかな　等菓
筆先に付たる香の尽る　蒙嘉
たゝき出る雷にたゞ打る山田哉　一九
夏月百韻
夏の月百韻不二の句
はら〳〵と散て飛ぶ麻地海　芝角
秋郷

さゝ〳〵と社常と家竹の屋　上巻　心足
道の霧清流と寂る寺門　林浪
町並の家はゝ〳〵時一雨うれ　良汁
ちらゝの花の陰もゆく夏木立　意以
惟ふ世きものの船はたゞよふ　無尋
月新ふ迎〳〵うつる庭うれ　波江
涼しさはたゞうつる山路　鶴菊
我ものとよ秋ちらして撫の音　南アル　卓堂

源三位頼政卿の歌に
一ツとせみのよりあひの
浦の戸に月さしこめる
海士の子の
釣人の招く枝の
笹竹の
出る月にまつ程あり
下り日も
四のかみ

上タチ 一枝
藤松
妻乃女
楼山
長谷
上サ 芝富
金波
三字

形代の
起ぬけの
物物
一ツ
夕
来る人の
初春の
月
形代
卜部
範成
可策
少将
翠仙
柄峰
松蘇

大井を左へ行き無畑牛　素友
反柳の下に一軒茶屋の婆　洗笠文　笠友
六月の田を人の為に飯時分　みのと
新蕎麦の花の咲く畦の茶　斗南
一日八橋は雨に出るかん　山方
かきつばた咲て紫反れば義の弁　北松
挿除して新芽待つや茶籠　里精
料理場の孫めの結ぶ茶　徐久

折る鶴に無蔡和の歌　アハ　屋精
ふけて来て裸に侍る蛍　思屋
灯籠の影の筋に浮る茶釜　牧甫
尺にも足る鯉ぬしに成る馬　鯉丈
株上の弓に引ふる花　トサ　婦牛
井戸堀の掘り付て源氏の物　素山
出る日に水かけて杜若　サヌキ　木長
若鹿に生年投げる数珠玉　イヨ　鶯居

かくれたる世捨人の心の花
来よかしと思ふ春の夜の月
春去て秋帰りくれなゐの色
行つまる日も枝の末つかた
夏蛙なくを聞て世外の人
紫陽花の咲ほこりて姿うれ
ゝ枕ゝ木の樹枝撓ふ
時雨を堺ゝ穂ゝ寒ゝ色

素義　柳水　江雄　少哉　安枝　清耳尼　稔市　遠流

霜ぬけて雲のまゝなれめ不如帰　イセ　芋江
此ゝ角力みれば夜の自　葉石
上陸よりの義法ゝ和ゝ　柳青
川骨や未ゝ枯ゝ廣き田の流　慧白
上下み篤栄の新ゝ米宝　五鈴
袖の長や唐物の行ゝ達　遠湖

初冬の秋や秋は去りぬ　得甚

稲は先づ刈り干す月　芋明

海和の吹雪とぞ言ふ　甚

表二階みな明かり　明

梅みなつぼみ　甚

竜胆みな枯れ　明

[illegible]

[illegible]の子に彼岸の傳を[illegible]

仏の[illegible]出る御　[illegible]乃信

[illegible]　甚明

[illegible]　甚明

[illegible]　甚明

[illegible]　甚明

[illegible]　甚明

[illegible]寺に[illegible]

[illegible]の月[illegible]

[illegible]の口[illegible]

海中の夜ふかきのあけぼの　蓼
おもしろくふるる尺八の音　〃
ひとすじにのぼる中くたのすそ　蓼
悔めとおもひし山巒めをふく　明
ぶつぶつとあるこのこの山の重　蓼
自然と怪る常ならぬ　〃
男も女の念の消ゆるまで　蓼
涙ふるる声もあれの生中　〃

子規博多帰るふるさとの　〃
ふるさとの秋みな月紅葉　蓼
ふるれば秋なほ深き塔の峯　〃
横みなぎる船出もいそがれ　蓼
深みゆく虎溪の布　〃
霧のまつぬきの高き空ふかる　蓼
順礼の法人生きて交る自　〃
小春みなしわる焼米　蓼

ウ

[illegible] 所

[illegible] 墓

[illegible] 所

[illegible] 墓

[illegible] 所

[illegible] 墓

秋の種子[illegible]の時[illegible]

一初秋秋[illegible]

霧[illegible]

[illegible]

立秋[illegible]

七夕[illegible]

[illegible]

[illegible]

一具

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の月の場合の[illegible]　丁知
[illegible]　四場
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の表[illegible]　五雀
[illegible]　南雄女
[illegible]の住居　東高
[illegible]　仙尼
[illegible]の数[illegible]　羽重

[illegible]一羽他[illegible]　妻山
[illegible]の[illegible]　呂川
[illegible]　[illegible]屋
[illegible]の[illegible]　妻民
[illegible]の[illegible]　由也
[illegible]自[illegible]　雉隨
[illegible]の[illegible]　由之
[illegible]　東郎

、鍾ノ山田の尺月の出を指り秋　不法
、秋出でうの明るき出を萩社の　無為
蛾鏡出てうの田を刈り人通り　素行
苅て田み年繰りうと金業　搬柴
秋宮出業を持て又てきうり　良古
紐を出流し舟ふるふ時　牡丈
弁当の鮮の使しに秋社山　素法
流れの時と出り秋の川　古笠

自流出ふるふ出て出社芋　十二六　影左
耳み先初穂入れ雪社恵　牡蠣
おりしけいて舟出　城兄
初蛙出田を流めるの金社年　史山
集石の雪のよるに月　アハ　山の都
麻畑まるるの出前　秋美
背戸より数えて秋のか村　アフミ　月坡
町井の井戸より垣ゆ流の弟　磯山

秋風や露より出て茶の色　京　芋金

名月の雲や千深の清進石　秀行

山深み仰ぬ廣葉や萩の先　百吉文　公策

稲妻はさまつて秋の晴とは　梨重

初月や雲をはらつて行光　乎明

さし新る笠の上へ女郎花　ムサシ　竹山

地よしこそ汁の海や仕舞　天田

露の降星に降こそ秋の月　三十文　一之

秋立や小ぶりの雨の望　梅　上サ　破車

人参や洗茅の岩の鮎河　吉黒

ちりそこなふて秋新萩の跡　佳悠

秋空や海仮ふて嚴鄰　柳岳

鬼灯の色ふくらで庵の窓　含く

都あ内方の黄雪や洗の稚　古河　南涯

三黄雪をかこせ羽青や稲雀　笑砂牡

洗ふて行るものの秋の霧の青　士明

時雨降る冬山の霧　甘翼
夢ごとに時雨ぞ二百十日　上毫　井崖
懸よりも森に安歩浅情和　懸志
日はうたて出づ海うあり自尾　重岳
おりておく懸を吹く秋の風　巴玉
枝うつりする霧の軒の和日和　桂岱
つくりあり屋の暴風の野の雨　高美
つくづくと義の人の志　青自

引汐の松吹き鳴ぬ秋の夢　サト　西塢
里社の分うつり出る月　扇甫
照まもる緑の霧の月　柳女
秋よりも先の枝の破ふ秋風　サツマ　鎮冠
名月のうつりうつる庵の古仏　大瓦
秋すのを拾ひ嬉し粒の栗　ヨク　如雪
夢つくる人のうつるや秋の水　蕉川
苏摩ぶうつり出るうつる　留女

松屋の書屋ふるう　紅河（下サ）　浮宜

ふるく秋と表行寒の寒　旭高

寒雲さけて止亮寒ふる　古溪

秋夢也結ふまもれたる　南茂

遠山へ寒吹おろる　村雄

寒雲を狭めて義の寒　雅麦

ふるくを人ふ寒角力　樹甫

秋毎ふ表ふるる寒雲　知節女

表の屋敷の中より少しひ　蕙部

撰ふ寒ふるふ九月尽　重我

寒の侵秋立恒の糸広しの秋（アキ）　物思

秋毎ふ特ふ侵りの立不来　豊是

寒ふるふ書ふ寒雲秋　仕ふ

光りの芋宮の水ふ秋秋屋　赤精

光ふる新きりくれ白の月　古山

降ふふ思ふ接森ふ初一菓　仙亮

秋萩の移ひにけるかなと書くれ　未定

汐時や物の紅葉哉　美文

仏の御丹楽法師　牧玉

葉咲くや此の世の中を思ふれイセ　芦洲

水底をまさぐる御月の新色　羽糸

秋風や波うちかけて流る海　孫結

名月や畳の上の一枚哉　東化

文月や月のうつる牧生哉　松雄

動くなき雲も雲なる雲生哉　光月

月さすや森に隠るる蛾の中　角儀

汐風のうしろ吹くまま紅葉哉　いさ彦

根を分て雨降り初るや紅牡丹　得蓋

庭木吹雪を折るまゝ小さ枝ヲハリ而后
山ぶかく木こゝ清こゝ時雨こゝ　一清
しこゝ也木の下落葉を焼く　三柳
老山也雪の夕見ゆる雪の年　烏酒
鶯鳴ぬ雪の日和也洗の雪　梅翠
しこゝ也畑出来き桑変　李嶺

歌を作き義こゝ歩く細代寺　京　九起
鶯鈴の尾ふり歩き時雨　丈翠
一こゝ静の路に春深し雪の路　柏柱
戸を明こゝ初ける静ふ時雨こゝ　云子
雪鉢こゝの古寺案先こゝ　古武良
自の下に教に行こゝ鉢叩　三千コ　重徳
紫のふ也雪をあれ畑堀　庫之
青雲ふ只行こゝ川玉雪　巴陵

川苔のふけ部る必神無月　長崎　長吉
面影る物也さきしの月　弱点
黄生木の石いもつく牡蠣殻　トサ　唐外
初雪と紫の紫の折ん　長崎
羽生俳句行の蜻蛉初冬　岩見　青泥
落葉蒼もれる水仙也　加賀　知愛
待て来て二度めの重時雨　加賀　双鳥
動き出す自の春一枝の雲　雅信

上サ　由儀
芋明る汐の時雨もとりの兎　青林
ちつまり也重のいけくの松の雑　部角
海苔の蕎麦の藤寺の初時雨　美石
芭蕉也費水さ侍ぬ京橋く　桂素
出もくの一庭み和ぬ紙衣　京都　望高
蕎麦の手の寄る経巻かりり　ふ里
干潟ふる力必陰の重　秋壺

ムサシ
汶 牙
苑 外
究 酌
粉 皎
如 繡
東 文
無 頑
菊 叶

上サ
東 西
竹 湘
篠 物
芦 汀
青 蓋
下毛
市 栗
屋 富
き く 牡

[illegible]　安部
[illegible]　恵丸（ヒタチ）
[illegible]　呂風
[illegible]　千代麻
[illegible]　朱麻
[illegible]　一秀
[illegible]　重賀
[illegible]　春水

[illegible]　蓋玉
[illegible]　芳好
[illegible]　一重
[illegible]　和竹
[illegible]　柳庵
[illegible]　大手
[illegible]　和重（スルカ）
[illegible]　山歌

[illegible]　　至拙
[illegible]　　菓九
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]

[illegible]
[illegible]　　京余改　[illegible]
[illegible]　　七年余改　[illegible]
[illegible]
[illegible]　　一本文　[illegible]
[illegible]
[illegible]　　由[illegible]

春立秋くれて幾千代とかはき
花前に幸路と守路の人
を越るその二株よりに花ん
あるさその右のりしれたき
枝をくるまし世話あらば菜の花
芦明

丹恵書

行基實作の法語にいはく
眼鼻手足もそなへたる世に
猶ふたつなし其身の角云はと
いふへし　門生一ヶ洞儀の法をき
ゝの毎を汲み寿老さすらへる人
ゝ雑なとは芦明とかゝる記は
兩叉の花まてかのくをとゝめ　永年

賀集たるの姿は世に
序ぶるにあらずや品かるを論ずに
為利ある人をもて又交るの
法きを以て孝子忠臣を
以異なるの子弟首習命ず
まるは世に素尾より
孝子忠臣
新小子脇八
頑又迷

可市本庵